

令和2年度 社会教育委員 第4回会議

令和2年10月30日（金）

18：56～20：20

プラザおおるり 第1多目的室

【出席者】

社会教育委員：出席委員：10人

田代廣保委員（議長）、北川美幸委員（副議長）

八木博委員、熊谷紀男委員、中村吉哉委員、鈴木美香委員、

萩原淑恵委員、松本敬人委員

欠席委員：2人（大石絵美委員、青山朝美委員）

教育委員会社会教育課出席者：3人

小林社会教育課長、伊藤課長補佐兼青少年係長、

佐野社会教育係長、鈴木会計年度任用職員（青少年係）

【議事】

1 開会 18:56

2 社会教育委員 議長あいさつ

- ・10/20に初倉小学校運営委員会に出席した。「子どもをほめる、子どもと話をする」というようなことは80%の家庭が実行している。しかし「決まった手伝いをさせる」「早く寝かせる」については50%が実行していない。ハードルが高い、ということか。

3 社会教育課長あいさつ

- ・本日も提言について検討をお願いします。

4 報告

- ・10/16中部地区社会教育委員連絡協議会研修会（牧之原市開催）に6人出席。出席委員3人に感想をいただいた。

5 議題 検討テーマ「家庭教育の在り方」

- 3つのグループに分かれてトークを行い、その内容を後ほど発表。3人の執筆委員を中心に3グループ編成で、それぞれの世代について協議した。

【乳幼児・未就学児グループ】

- ・家族＝核家族が前提となっているようだ。  
「親である」…誰にでもできる  
「親になる」…誰にでもできることではない
- ・小見出しがあった方がよい
- ・島田市の支援の部分がもう少しあるのでは。

#### 【小学生（低学年・高学年）グループ】

- ・未就学期に、親からの愛着を十分に受けたことが前提。愛着を受けていない子どもをどうしたらよいのか。
- ・世間が無くなり、家庭の負担が大きくなった。家庭教育に公教育の要素が入った。
- ・社会の決まりに触れさせることが必要。
- ・自我の芽生えと共に、相手を意識する時期。

#### 【中学生・高校生グループ】

- ・反抗期、進学問題などが重要な時期。
- ・中学生である間に、責任の比重が学校から本人に徐々に移る時期。
- ・高校生は職業の選択が課題。子どもの特性を見据えたアドバイスを親が行うことが望ましい。
- ・箇条書きの方がわかりやすいのでは？

## 6 その他

（事務局から連絡事項）

- ・次回は12月15日（金）夜19時開催に決定。会場は決定後連絡。

## 7 閉会 20：20